

山梨県北杜市・井出原開拓地

「開拓之碑」

山梨県には戦後3500戸以上が入植したが、高冷地が多く、厳しい気象環境下だったので、定着率は低かった。最も入植者が多かったのは、県北西部の長野県境の北杜市（旧・きたこま北巨摩郡）の約1300戸。うち、八ヶ岳南麓に位置する井出原開拓地は、標高800～1200mの農用地としては不適格な不毛の未開地だった。

1945（昭和20）年から、引揚者・戦災者など約130戸が入植した。悪条件ばかりで開拓は困難を極めたが、入植者は助け合って第二の故郷の建設に取り組んだ。入植地区で各農協を構成し、石堂開拓農協や安都玉開拓農協など7つあったが、58年に合併して井出原開拓農協を結成。農畜産物の共販態勢の確立などを目指した。

冷災害に見舞われたことはしばしばで、経営状況が悪化した。道路の整備が開拓地の発展を促した。開拓者の強い団結と工夫により、高冷地農業の成果が上がるようになった。現在、レタスなどの高原野菜の栽培が盛んとなり、山岳・高原の観光地、保養地としても発展している。

同市大泉町（旧・大泉村）の石堂公民館の敷地内に石堂開拓の記念碑がある。石堂共有財産区が90年に建立したもので、碑銘は「開拓之碑」。側の碑銘板には「一世代の人々は厳しい自然条件や農業経験もなく又農機具も不備ななかで血の滲む様な努力により開墾を続けた 時の需要に応じ穀物酪農蔬菜栽培を行う傍ら農閑期には出稼ぎにより生計を立てた」と記されている。

